

# ちえん

季刊

東海大学と地域が創りだす、地の縁・知の園・地の宴。

Chi·e·n

## スポーツとコミュニティー

地域は「世代間交流」のステージ。

機会があるたびに  
近隣の子どもたちが集まり  
世界で活躍するアスリートと  
スポーツを楽しむ。

ボールを追う無邪気な戯れの中に  
世代や経験をこえた  
共通の思いが芽生え始める。

地域の未来に向けて  
子どもたち一人ひとりの夢をつかむために。



Vol.2  
October.2017

TAKE FREE

02-03

第2回“ちえん”をつくる人々  
健康バスプロジェクト

04-05

TOKAI 探訪記  
Vol.2 東海大学の今と昔にふれる!  
第二回 ちえん川柳

06-07

つかのはらいそ通信  
大学と地域の連携活動をご紹介  
International students' life & Life  
スポーツマネジメントを学び、サッカーで自国を元気に!

08

学生街のトマソン  
大剣が突き刺さるアパート「ノーブル ゼハムト」

Information

学生4コマ漫画 I・MA・DO・KI



## 「健康バス」は特定健診を促すシンボル 青いバスが運ぶ“伊勢原人”的幸せ

### 第2回 “ちえん”をつくる人々 「健康バスプロジェクト」

2017年度To-Collaboプログラム大学推進プロジェクト  
「ライフステージ・プロデュース計画 スポーツ健康事業」

日本人の死亡原因の約6割を占める生活習慣病を予防するために、40歳から74歳までを対象に行われる「特定健診」。1年に一度、きちんと受けていますか？

東海大学大学院医学研究科ライフケアセンターでは2014年から、伊勢原市民の健康診断受診を促進し、健康への意識を高めてもらおうと「健康バス測定会」を実施しています。大学から青いバスが伊勢原市内各地に出張し、「血圧」「血管年齢」「体組成」「骨量」の4項目が測定できるというものです。今回は、同センターと伊勢原市で健診の未受診者減少を目指す伊勢原市保健福祉部健康づくり課の担当者4名に話を聞きました。

### 医療費削減へのカギは特定健診の受診



大学院医学研究科ライフケアセンター 佐多 憲二客員教授

超高齢社会を迎え、国も自治体も医療費が高騰し予算が厳しくなっています。一方で全国の自治体を調べたところ、特定健診の受診率が高い地域ほど医療費が低いというデータがあります。会社員の社会保険による健康診断は9割以上が受診していますが、国民保険や、75歳以上の老人保健加入者の受診率は4割以下。半分以上が未受診のまま病気になり、医療費の負担が

増えているのです。

伊勢原市は比較的受診率が高い方ではあるのですが、高山松太郎市長が健康推進に対してとても意欲的で、一昨年に伊勢原市役所近辺で開かれた「畜産まつり」と「農業まつり」で初めて健康バスによる測定会を実施し、好評だったことから回数を増やしていきました。しかし、イベント内で実施すると会場まで来てもらわないと受診してもらえないですし、本当に受診るべき人は自ら足を運ばないのではないかということで、健康づくり課が各自治会の会長と話し合い、毎月自治会の集会所へ出向くスタイルになりました。1年半この形で続けたことで、「健康バス」という名前は一つのイベント名になってきています。よく『バスの中で心電図を図るような測定会』と間違われますが(笑)、一度来たことがある人は、健康バスが停まっているのを見ると、「ここで健診（測定会）をしている」と連想してくれるようです。バスはシンボルとし、来場者に受診の大切さを意識づけて、周囲にいる未受診者に参加を促してくれるのが理想ですね。

今年度は湘南校舎をはじめ、秦野市と平塚市でも測定会を実施する予定です。市が所有する機材や人員によって、伊勢原市のそれとは内容が異なるかもしれません、神奈川県の西地区では市の職員同士が情報を共有し合うなど組織間でのつながりがあります。また、来年度東海大学に新設される健康学部では、健康をマネジメントする人材育成のために健康バスの実習も検討しています。市が行うような健康イベントの企画やデータを分析し、健康を通じた地域連携をよりいっそう深めていきたいと考えています。



東高森団地集会所での測定会へ出向いた「健康バス」

## 市の健康イベント集客にも一役



東高森団地集会での測定会の様子

外出の機会が減ってしまいがちな方でも、自宅の近所に健康バスが来ると、「普段なかなか外に出ないけど、これ（測定会）があるから久しぶりに出てきました」と集まってくれます。測定を受けた後もすぐには帰らず、久しぶりに会った近所の人とお話ししている様子もよく見ますね。人

と話す機会 자체が久しぶりで、溜まっていた話題を吐き出すかのようにわーっと話される方もいます(笑)。

今まで測定会に参加された市民の方からは、「来年もやってほしい」という声が非常に多いです、測定後に「今度は病院やクリニックで検査を受けてみる」とおっしゃる方も多く、健診に興味を持つてもらうきっかけづくりになっていると実感しています。この活動は、私たち市役所の保健師だけではできません。東海大学の先生方や学生さんが運営に協力してくれるので次のステップにも向かうことができているんです。

また、測定会は市で開催しているほかのイベントのお知らせをする場にもなっています。「市ってどういうことをやっているの？」と疑問を持っている人は多いでしょうし、最初は参加するのに抵抗があるものだと思います。でも、こういう



伊勢原市保健福祉部健康づくり課 高橋 あ弥さん

機会に一度来てもらえると、ほかの教室やイベントへ参加しやすくなるんですよね。先日も、測定会で「健康いせはらサポーター養成講座※」にお説明した方が実際に参加してくれたことがあり、健康バスを契機に次のステップへつながっていると感じました。『健康』というテーマにどんどん興味を持ってくれている証拠ですね。

※健康づくりを推進するボランティアスタッフを養成する講座

## さまざまな角度から健診の重要性を訴える



伊勢原市保健福祉部健康づくり課 為我井 恵偉胡さん

「血圧」「血管年齢」「体組成」「骨量」の項目を一気に測定できる機会はあまりないです、測定結果についてしっかりと説明するので、「自分の健康状態を知ることができてよかった」という声はすごく多いですね。健診を受けない方は、健診や健康状態にあま

り関心がなく、「測定会で初めていろいろな検査をしました」という声も聞かれます。まだ開始から3年目なので受診率が大幅に向上したというデータは出ていませんが、「健診の必要性がわかった」と話していた人が、後日病院で特定健診を受けていたこともあり、こういうケースが増えしていくといいなと思います。

また、今年はほかにも健康バスの事業とつながりを持った「いきいき健康講座」という6回シリーズの講座を実施しています。東海大学医学部の先生方を講師に、「健診の検査項目・データからわかること」「脂質異常症のリスク」など、さまざまな分野についてわかりやすく解説してもらっています。その中では必ず、「やっぱり健診が重要なんだよ」というメッセージを入れるようにしていただいて、健康バスのときにチラシを配って参加者の方に周知しています。特に、「健診未受診」とアンケートで答えた方は積極的にお説明しています。



日ごろの体の悩みを相談する機会にも



東海大学の学生が運営をサポート

## 自分の存在が社会の中にあることを自覚してほしい



大学院医学研究科ライフケアセンター 平沼 茂客員教授

私は健康バスの受付で、来てくださった市民の方によく「こういう測定を受けたことはありますか？」と聞きます。「初めてです」と答える方が多いので、さらに終わった後に「どうでしたか？」と聞くと、ほとんどの方が「受けたよかったです」と言ってくれます。

健康バスの測定会は特定健診の受診率向上が目的ですが、自分の体の状態をきちんと知ることは安心感をもたらすので精神的にもプラスの効果を与えます。この取り組みは、市民の方がいかに喜んでくれるかが原点だと思うんですね。何に喜ぶかというと、病気になるより元気でいたほうがもちろんいいわけですが、“元気”な状態というのは、社会に自分の存在を感じるということ。実年齢ではなく、体の健康状態を知ることは、自分が動ける範囲や活躍できる環境を把握することにつながります。例えば、どこかに勤めるケースもあるだろうし、草むしりのボランティアでもいい。測定結果から今の健康状態でできる範囲の役割を見出しができれば、自分の存在が社会の中にあることを自覚できます。そのきっかけをつくるのが健康バスなのであれば、「健康バスのおかげで元気になれた」「健康バスで幸せになりました」という声も出てくるんじゃないかなと思っています。

大学は科学的な技術や情報を広くわかりやすく市の職員や市民に伝える必要があります。医学部としては、病気になったときに助けるという役割もありますが、逆に、病気になる手前で健康バスなどを用いて、どれだけ幸せな“伊勢原人”をつくれるかという視点も必要であり、これがゴールだと思います。

### スポーツ健康事業報告会を開催!

### 知って健康! 生き生きライフ

～伊勢原市民の健康寿命の延伸に向けた取り組み～

健康バスを含む、伊勢原市と東海大学の連携事業の成果報告会を11月3日（金・祝）に開催します。

当日、東海大学伊勢原校舎は「伊勢原祭」の最終日！お問い合わせのうえ、ぜひご来場ください。

【日 時】2017年11月3日（金・祝）

【場 所】東海大学伊勢原校舎3号館3-562教室

【参加費】無料（事前申し込み不要）

【プログラム】

1. 東海大学地域連携について  
東海大学地域連携センター所長 池村明生教授
2. 伊勢原市の健康づくり  
伊勢原市保健福祉部健康づくり担当部長 井上穂氏
3. 取り組みの概要  
東海大学健康科学部学部長 岩澤智子教授
  - 1) 「健康バス」  
東海大学医学部 芦口隆重客員教授  
(休憩)ストレッチ  
東海大学体育学部 三田信孝教授
  - 2) 「健康クラブ」  
①体組成、骨密度  
東海大学健康科学部 松木秀明教授  
②肺機能  
東海大学健康科学部学部長 岩澤智子教授  
③身体活動と栄養調査  
東海大学健康科学部 池内真弓准教授
  - ④メンタルヘルス  
東海大学健康科学部 谷口幸一教授
4. 閉会のことば  
【お問い合わせ】  
東海大学健康科学部 谷口幸一  
メール：yaguchi@is.icc.u-tokai.ac.jp



# 第二回 ちえん川柳

“ちえん川柳”とは、東海大学と地域とのかかわりをテーマとする川柳です。  
ご応募いただいた川柳の中から、選定された作品をご紹介します。

特選

優秀

入選



|                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| <b>大學の 近道などは ありません</b>      | <b>ちえんネタ 遅れる車両で 一句詠む</b>    |
| 横浜市 技術支援課です。さん<br>27歳       | 横浜市 エキゾチックにやーさん<br>57歳      |
| <b>ソーラーカー 檬の下で 一休み</b>      | <b>都會だと 思つて来たら 東海山</b>      |
| 川崎市 くまさん<br>61歳             | 平塚市 クロサボさん<br>68歳           |
| <b>ボランティア たたかず 単位換算</b>     | <b>ドトールに行きたりけれど 勇氣なり</b>    |
| 横浜市 エキゾチックにやーさん<br>57歳      | 秦野市 石さん<br>19歳              |
| <b>東海は 平塚秦野 はつきりせり</b>      | <b>駅前のちえん(地縁、遅延)話で 乗り遅れ</b> |
| 茅ヶ崎市 のすけさん<br>19歳           | 横浜市 YOSSYさん<br>57歳          |
| <b>頑強な 若者ぞと 爰を出す</b>        | <b>町田から 景色が激変 小田原行き</b>     |
| 平塚市 クロサボさん<br>68歳           | 横浜市 永遠の23才さん<br>25歳         |
| <b>「ちえん」とは 住・学・働く つなぐえん</b> | <b>大根駅 エスカレーター 今昔</b>       |
| 秦野市 ヨシモトさん<br>37歳           | 国分寺市 吉澤さん<br>60歳            |
| <b>富士を背に 夕日に浮かぶ 影絵橋</b>     | <b>運動部 今日の朝練 美化運動</b>       |
| 秦野市 地元民さん<br>55歳            | 秦野市 地元民さん<br>55歳            |
| <b>息づぎのよきに色づく 散歩道</b>       | <b>箱根路を 地域ぐるみで 応援じ</b>      |
| 小田原市 まる眉さん<br>27歳           | 大和市 神奈川WEEEDさん<br>60歳       |

**選考委員からの寸評**

「ちえん川柳」の第二回です。(特選)の第一句。電車がなぜか遅れる由。この間に「ちえん」川柳を一句。「ちえん」と「遅れ」は和歌での縁語(修辞的技法)となります。第二句は「大学への」の意。大学への近道などはないのです。しっかり勉強してください。また東海大学前駅から遠い校舎までの近道もないのです。第三句は、東海大学が誇る「ソーラーカー」は休むにも木を選ぶのです。そうです「檉」です。(優秀)の第一句。東海大学はなんと「東海山」の山上にあったとは。湘南校舎には海のイメージがあります。「山」との対応がポイント。第二句。キャンバス内の「ドトール」は日本語禁止です。(入選)第三句。江戸時代初期の『毛吹草』という書に、「相模」の名物として「秦野大根」が記されています。歴史ある地です。第六句は箱根駅伝。応援しましょう。

(林下の梅法師)

継続  
募集中!

# つかのはらいそ通信

平塚市、秦野市、伊勢原市、大磯町の3市1町(つか・の・はら・いそ)において実施された大学と地域の連携活動をご紹介します。

## ひらつか

### 身体を動かすことの 楽しさや喜びを分かち合う

7月9日に湘南校舎で、平塚市・秦野市の小学生を対象とした「ちびっこサマーフェスティバル」が開催された。スポーツ活動を通じた地域との人的交流・生涯教育の実践を目的に1999年から毎年開かれている。

当日は、小学生とその保護者281名が参加。東海大学水泳部、女子バレーボール部、体育学部、スポーツ教育センタースポーツ課のアルバイト学生、教職員が運営にあたり、15号館プールでの水遊びや、水泳部による水泳教室、総合体育館でのニュースポーツ体験など、多様なスポーツやフィットネスを通じて子どもたちと交流した。



## はだの

### 芸術学科音楽学課程が 演奏会「音楽の夕べ」を開催



教養学部芸術学科音楽学課程が、7月14日に小田急線「東海大学前駅」南口のタウンニュースホールで演奏会「音楽の夕べ」を開催。同課程の学生有志が日ごろの学びの成果を披露しようと毎年開催しているもので、今年は20組が出演し、地域住民や学生、教職員らが演奏を楽しんだ。

プログラムは3部構成で、独奏や独唱のほか、ヴァイオリンとフルートの二重奏、女声三重唱、サキソフォン四重奏などが披露され、最後は金管楽器を中心に構成したフレキシブルアンサンブルで締めくくった。

### 特製キットで科学技術・工作の面白さを伝える



8月25日に、東海大学チャレンジセンター・ユニークプロジェクト「きらきら実験教室」のメンバーが、平塚市立金目中学校で「電子工作教室」を開催した。子どもたちに科学技術やものづくりの面白さを伝えることを目的に、毎年同中学校で工作教室を開催している。

当日は、プロジェクトメンバーが開発したマイコンタイマーのキットを使った工作に挑戦。また、完成したタイマーを教材に学生が講義を行い、生徒らは工作の面白さやタイマーの仕組みについて楽しく学んだ。

### デフスポーツを通じて交流



9月9日に平塚市立みずほ小学校で、東海大学水泳部の茨隆太郎選手(大学院体育学研究科2年)がデフスポーツ(ろう者スポーツ)について講演した。「東海大学地域スポーツクラブ」の活動の一環で毎月2回、同小学校を会場に平塚市職員と体育学部スポーツ・レジャーマネジメント学科の学生が中心となり、パラスポーツの選手を招いて定期的に講演会を開催している。

茨選手は集まった参加者20名を前に、自身が出席した試合の映像を流しながら、デフリンピックについて説明。また参加者は、ろう者の聴力を体験できるヘッドホンを装着して卓球を体験するなど、デフスポーツを通じて交流を深めた。

### TOKAIクロスクエアで科学捜査を体験



8月22日に東海大学教育支援センターの技術支援課職員が講師を務め、小学4~6年生を対象に地域連携講座が開催された。親子5組が参加した当日は、用意されていた白衣を着用し、本物さながらの科学捜査員になりきった子どもたちが「指紋採取」と「血液反応」を体験した。

会場を暗くして行われた血液反応の実験では、「ルミノール」を使用した反応液を、代用血のりに垂らすと青白く発光。その不思議な光景に子どもたちは興味津々の様子だった。

### TICCが「2017年度 夏休み宿題サポート」を実施



東海大学チャレンジセンター「Tokai International Communication Club (TICC)」が、8月16日から18日と、23日、24日に秦野市の南公民館で、市内在住の外国につながりのある小中学生※を対象に「夏休み宿題サポート」を実施した。

今年度で5回目の開催となり、5日間行った教室には毎回10名前後の小学生から高校生が参加した。

期間中は、参加者の学習計画を作成し、それぞれが学校から出された宿題や、日本語の単語を学ぶカードゲームなどに取り組んだ。

※外国人住民の定住化により、海外から来日する子どもだけでなく、日本で出産した外国人や国際結婚した夫婦の子どもなど、多様な言語や文化の中で育つ子どものこと

# いせはら

あらゆる枠をこえ  
人のつながりをつくる

6月17日に、東海大学チャレンジセンター「Challenge for the Borderless World (CBW)」が伊勢原市の「だいろくコミュニティー広場 来るりん」で、第1回目となる自主イベント「伊勢原イドバタ会議」を開いた。

医療系の学生と市民が対話を通じて学び合い、市の魅力や課題を発見するとともに、その課題を解決するために学生が何ができるかを考える機会にしようと実施したもの。当日はプロジェクトメンバーや市民ら29名が参加し、「健康」「食」など4つのテーマでディスカッションした。地域の人々の声に耳を傾ける機会として、今後もさまざまなイベントを実施していく予定。



## 学生が「道灌まつり」のポスターをデザイン

教養学部芸術学科デザイン学課程3年の小谷美歩さんが、10月14日、15日に開催された第50回記念伊勢原観光「道灌まつり」のポスターをデザインした。伊勢原市商工観光課から依頼を受けて、同学科の学生がポスターのデザインを担当するようになって6年目。今回は3、4年生8名がデザインを提案し、道灌まつり実行委員会の投票で作品が選ばれた。

道灌まつりは、伊勢原市で生涯を閉じた戦国武将・太田道灌にちなんで名づけられ、今年で50回目を迎えた。



## おおいそ

### 医学部付属大磯病院で「癒しのイベント」を開催



東海大学チャレンジセンター「病院ボランティアプロジェクト」が、9月16日に医学部付属大磯病院で、「癒しのイベント」を開催した。この催しは、入院中の患者のストレスの軽減などを目的として、毎年企画している。4回目となる今回は、「夏の一日～輪く輪く歌踊祭in大磯～」と題して、日本民謡の鳳蝶（あげは）流の3名が「炭坑節」「銀座カンカン娘」など5曲を披露したほか、秦野総合高校合唱部の生徒10名が、「津軽海峡冬景色」「ディズニー・メドレー」など5曲を熱唱した。

## International students' げしゅくLife

この「げしゅくLife」では、東海大学に在籍する留学生を毎回ご紹介!  
日々の暮らしや将来の夢など、留学生たちの思いをインタビューさせて  
もらいます!さて今回ご登場いただく留学生は…?

### 「スポーツマネジメントを学び、サッカーで自国を元気に!」

エバエロ・アバヨミさん (Abayomi Egabayo)  
(大学院体育学研究科体育学専攻1年／出身 ナイジェリア)

ナイジェリアから留学してきたアバヨミさんは、東海大学大学院体育学研究科でスポーツマネジメントを学ぶ学生。そしてもう一つの顔は、出身国ナイジェリアの大都会ラゴスを本拠地とするプロサッカーチーム「イガンムFC」のオーナーです。

小さいころからサッカーが好きだったというアバヨミさん。膝の不調で選手への道はあきらめたものの、サッカーにかかりたいとの思いから、2014年に出身地であるラゴスにチームを立ち上げました。

働き口が少なくドラッグや犯罪がまん延しているラゴスに、サッカーチームをつくれば“選手”という職業を生み出しができ、チームにかかる人や家族も経済的に豊

かになり、悪いことにも手を染めなくなるのではないかという思いがチーム設立のきっかけだったそうです。

東海大学でマネジメントを学びながら3ヵ月ごとに自国へ戻り、チームの様子を見ているというアバヨミさん。将来の夢は、Jリーグやヨーロッパのサッカーチームのコーチになることで、いざれは「イガンムFC」の選手を海外リーグで育てていきたいと語っています。現在の「イガンムFC」はナイジェリア5部のチームですが、遠く日本から選手40名を支えるアバヨミさんは、夢を追い求め世界のフィールドを走り続けています。

## 学生4コマ漫画 作・青田みい I・MA・DO・KI



“ちえん”の路上觀察学

# 学生街のトマソン

湘南校舎13号館

裏の道を歩くと、大きな剣が突き刺さるアパートが現われる。「ノーブルゼハムト」という名前もさることながら、黄色い大剣のレリーフはファンタジーの世界にでも入ったような錯覚を覚える。この賃貸アパートを管理運営する「ユーミーらいふ」の関係者に取材をお願いした。

関係者によると、「ゼハムトだけではなく、『リュミエール』に『ヴァンボナパルク』と、この一帯には3棟のノーブル・シリーズがあり、同じオーナーの方が経営されています。オーナーは最初に竣工した『ノーブル リュミエール』と同名の小説を執筆しています」とのこと。さっそくオーナーである高橋誠さん(36)にあらためて話を伺った。

「ゼハムトは、小説『ノーブル・リュミエール～未来への忠誠～』に登場する主人公の少年の父の名で、その他のアパートの名と同様の人物たちも登場します。学生時代から読書が好きでフランスにも興味を持っていたので、小説を書きたいと考えていました」と高橋さん。「リュミエールは城、ヴァンボナパルクは風や凱旋門、ゼハムトは剣などをイメージして、学生街のアパートとして若い人にも楽しんでもらいたいと開発しましたが、小説を書き始めたのはその後、勤め先を辞める直前です。アパート開発が小説への執筆を後押ししたようなものですが、常に暮らしと人生を関連させたいと考えています」と気さくに答えてくれた。小説に登場するキャラクターなどが現実のモノに置き換わることはよくあるが、今回はまったく逆のケースであった。アパート開発がファンタジー小説を生み出したのである。

高橋さんの小説には、『リュミ』『エール』『ヴァン』『ゼハムト』など、アパートと同名の登場人物が現われ、勇気・命・未来についてのメッセージを語る。小説の最後に暴走する大剣が大地に突き刺さりエピローグを迎えるが、その大剣も再び動き出す気配を残す。現在、高橋さんは第2弾の小説を構想中であるという。また具体的な予定はないものの、空想動物をイメージするアパート開発にも興味を持っているとのこと。アパートと小説。一見つながらないものが、高橋さんの中では広がりを見せていた。



小説の作者・アパートのオーナー 高橋誠さん



「ノーブル・リュミエール～未来への忠誠～」文芸社

「トマソン」とは、前衛芸術家、赤瀬川原平(1937年-2014年)らの活動“路上觀察学”の中から生まれた、変わったマンホールの蓋や看板、建築物や構造体など、意味は不明だが何かを語っている物体の意。

## Information トコラボシスターズからのお知らせとご案内

### 地域連携イベント

#### 定期映画上映会「学前夕暮れシアター」

「ここではない、どこかと映像でつながる」をテーマとした学生による映画上映会

日 時 第7回 11月16日(木)上映作品未定

第8回 12月21日(木)上映作品未定

第9回 2018年1月18日(木)上映作品未定

17:00開場／17:30開演～20:00終了予定

主 催 東海大学文学部広報メディア学科 水島研究室

定 員 各回30名程度

お申し込みは不要です。お気軽にお立寄りください。



### 地域連携講座

#### 駅前研究室へようこそ！

世界的な企業のブランド力や企業戦略について、学生たちが研究成果を発表

日 時 11月6日(月)18:00～19:30

主 催 東海大学政治経済学部経営学科 岩谷研究室

定 員 20名 ※要申し込み／先着順



### 認知症サポーター養成講座

認知症に関する正しい知識と対処のポイントを、学生たちがわかりやすく解説

日 時 第1回 11月11日(土)

第2回 11月25日(土)

第3回 12月 9日(土)

第4回 2018年 1月20日(土)

11:00～12:30 ※各日同じ内容



主 催 東海大学教養学部人間環境学科 堀研究室

講 師 東海大学教養学部学生(キャラバンメント有資格者)

定 員 25名 ※要申し込み／先着順

### その他のイベント

#### 「環境化学物質と子どもの健康」

身の回りに存在する毒性物質などが及ぼす小児への影響について講演

日 時 11月4日(土)13:00～14:00

主 催 2017年度To-Collaboプログラム 大学推進プロジェクト  
エコ・コンシャス計画 環境保全事業

講 師 東海大学医学部学部長 坂部貢教授  
(基礎医学系生体構造機能学)

定 員 20名

お申し込みは不要です。お気軽にお立寄りください。

※会場はすべてTOKAIクロスクエアです。

### 「TOKAI芸術シニアアカデミー」受講生募集！

シニアの方を対象とした、大学の環境を活かした芸術分野の公開講座

日 時 11月25日(土)

12月 2日(土)

12月 9日(土)

13:30～16:30

※デザイン講座のみ第2回は12月4日(月)

主 催 東海大学教養学部芸術学科

講 師 東海大学芸術学科教職員

音楽講座:20名程度

美術講座:6名程度

デザイン講座:8名程度

無料(材料費含む)

募集期間 10月10日(火)～10月31日(火)必着

会 場 東海大学 湘南校舎

※応募条件、問合せ先等、詳しくは下記QRコードからアクセスしHPをご覧いただか、専用ラックのチラシをご覧ください。



### ちえん川柳募集中！

地域と大学のつながりをテーマとした「ちえん川柳」を随時募集しています。選ばれた作品は本紙に掲載します。

応募は、メール・郵送・TOKAIクロスクエア川柳投函ボストンへ。たくさんのご応募お待ちしております。詳しくは、WEBまたはTOKAIクロスクエアへお問い合わせください。

### 地域連携紙「ちえん」の設置場所

東海大学近隣の自治体の施設、地元企業、公民館等約60ヵ所で配架しています！

■専用ラックの設置場所募集中！ 本紙「ちえん」の専用ラックを設置していただける施設やお店を募集しています。東海大学地域連携センター地域連携課までお問い合わせください。 TEL:0463-50-2406 E-mail:coc@tsc.u-tokai.ac.jp

### TOKAIクロスクエア 利用者募集中！

地域の皆さまのサークル活動の展示会や発表会などのスペースとして無料でご利用いただくことができます。

(会期1ヶ月前までの予約が必要です。)

詳しくは、WEBまたはTOKAIクロスクエアへお問い合わせください。



〒257-0003 神奈川県秦野市南矢名1-3-5

TEL ☎ 0463-78-5188 FAX ☎ 0463-78-5189

WEB 🌐 <https://coc.u-tokai.ac.jp/crosquare>

地域連携紙「ちえん」次号は来年1月発行の予定です。

